

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：34305

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580079

研究課題名(和文)唐代郊廟歌辞の研究

研究課題名(英文)Research on JIAO MIAO Songs of Tang Dynasty

研究代表者

加藤 聡 (KATO, Satoshi)

京都女子大学・文学部・准教授

研究者番号：10335325

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、皇室郊廟祭祀における祭礼歌の歌詞である郊廟歌辞について、特に初盛唐時代に制作された歌辞群を讀解・分析することにより、その文学的特質、および制作当時における政治・学術との影響関係について考察するものである。

この研究により、従来文学研究の対象としてほとんど等閑視されてきた郊廟歌辞の基本的テキストである『楽府詩集』の本文批判を行い、また玄宗開元13年に執りおこなわれた封禅儀に関わる楽府歌辞について、その措辞や発想の拠り所を明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：This study for JIAO MIAO songs, particularly by reading and analyzing the lyrics of the first Tang period, is intended to analyze its literary qualities and the relationship between political and academic.

In this study, text criticism of "Yuefu Poetry" has been performed. And as for lyrics of Fengshan ceremony in Kaiyuan13, it revealed the cornerstone of the idea and its wording.

研究分野：中国文学

キーワード：郊廟歌辞 楽府 祭祀 封禅 楽府詩集 旧唐書音楽志 大唐郊祀録

## 1. 研究開始当初の背景

秦漢以降、皇帝主宰による国家事業として執り行われた郊廟（天地神及び皇室祖霊）祭祀においては、郊廟歌と称される器楽伴奏を伴う祭礼歌が奉納された。郊廟祭祀そのものについては、各王朝の国家体制や儒教的礼教観が反映されるものとして従来注目され、この領域の研究をリードしてきた金子修一氏による一連の研究（『古代中国と皇帝祭祀』2001、『中国古代皇帝祭祀の研究』2006）のほか、台湾（章群『唐代祠祭論叢』1996 など）、中国大陸（雷聞『郊廟之外 隋唐国家祭祀与宗教』2009 など）それぞれにも、中国史および中国思想の領域で一定の研究成果が示されている。一方、郊廟祭祀儀礼本体の重要要素をなす祭礼歌の歌詞たる郊廟歌辞については、叙情や表現上の独創性といった文学的感興に乏しいものとみなされるためか、文学研究の分野で従来ほとんどその考察対象とならなかっただけでなく、上述した関連する歴史・思想分野においても、歌辞の分析を通じて皇帝祭祀の考察をおこなうものはなかった。

しかしながら、郊廟歌辞の作り手として、魏晋南北朝では傅玄・謝朓・江淹・沈約・庾信、また唐代に入っては張説など、各代を代表する文人がその制作に与ったことが記録される。この点のみから見ても、儒教的価値観に立脚する官僚（貴族）文人が文学の主な創作・受容者であった中国中世の文学的状况を考察するうえで、政治 学術（儒教） 文学を貫く素材である郊廟歌辞が研究対象として重要な意味をもつことは、じゅうぶん理解されよう。

本研究は、従来文学研究の対象となりづらかった郊廟歌辞という素材を研究の中心に据える点で文学分野における研究の空白を埋める新しさをもつものであるといえるが、同時に、先行研究の蓄積が比較的厚い中国史・思想分野における皇帝祭祀研究に対して

も、作品の精細な検討を通して、それを文学面から裏づけ、補完する重要な意義があると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、皇室郊廟祭祀における祭礼歌の歌詞である郊廟歌辞について、特に初盛唐時期に制作された歌辞群を読解・分析することにより、その文学的特質、および制作当時における政治・学術との影響関係について考察することを目的とする。

この研究により、従来文学研究の対象としてほとんど等閑視されてきた郊廟歌辞の諸相が明らかになるとともに、中国史および中国思想分野においてすでに蓄積のある皇帝祭祀研究を裏づけ、補完する意義をもつものとする。

## 3. 研究の方法

本研究の研究方法は、具体的に以下の3段階に分けられる。

(1) 隋代以前の郊廟歌辞の実態についての、初歩的な整理と概括。

『楽府詩集』「郊廟歌辞」所載の実作を分析し、祭祀の実態、作者との関係などを整理する。

(2) 初盛唐期(玄宗朝まで)の郊廟歌辞についての、精細な解読とそれに基づく分析。唐代郊廟歌辞の編成・詩体・韻律・措辞等について精査し、それに基づいた分析を加える。

(3) 初盛唐期郊廟祭祀の学術的・政治的背景と歌辞との関係についての具体的分析。儒教解釈学の歌辞への反映や、歌辞制作をとりまく政治的情況を具体的に分析する。

## 4. 研究成果

前項「研究の方法」(1)に従い、まず本研究の中心となる初盛唐期郊廟歌辞の分析への前提として、基礎的資料の整理と分析を行った。

唐代郊廟歌辞の基本的資料としては、まず『楽府詩集』巻4-7 および9-12 に収載される

歌辞があり、従来の研究はほとんど無批判にこれに依拠してきた。しかし『楽府詩集』と比較しうる資料として他に『旧唐書』巻31-32「音楽志」所収の歌辞群があり、そこでは一連の祭祀儀礼の実際や歌辞歌唱の音楽的状況など、『楽府詩集』が捨象した要素も多く記録される。さらに同時代史料として、唐徳宗時代の礼官、王涇が編纂した『大唐郊祀録』があり、上記2種の資料とはさらに異なる記述がままた見られる。

論文(1)においては、これら3種の基礎資料を整理し、その郊廟歌辞収載状況について比較検討した。その結果、作品収録について、『楽府詩集』は『旧唐書』音楽志を完全に吸収・利用しているが、その範囲は開元末年以前の作品に限られていること、『楽府詩集』収載の天宝年間以降制作に係る作品の資料来源は明らかでないが、少なくとも『大唐郊祀録』は利用された可能性が低いこと、が明らかとなった。さらに、3書が収載する各歌辞の制作年代や作者の異同を分析・考証した結果、『大唐郊祀録』の『楽府詩集』や『旧唐書』音楽志には見られなかったり、両書とは内容の異なる記述には、信頼できるものがままた見られ、従来唐代郊廟歌辞資料としてほとんど顧みられることのなかった『大唐郊祀録』に、その資料として一定の価値があることがわかった。

つづいて「研究の方法」(2)について、郊廟歌辞実作の精密な解読を中心に研究を進めた。具体的には、玄宗開元十三年の泰山封禪の儀に際して奉奏された封禪使張説による郊廟歌辞全十四首について、論文(2)および(3)として、合計40,000字を越える詳細な訳注を完成させた。この訳注では、論文(1)のテキスト整理によって得られた知見をもとに、本文を従来顧みられることの少なかった『大唐郊祀録』所収歌辞の文字と対校することにより、『楽府詩集』および『旧唐書』音楽志のテキストを校訂できた箇所が

少なくない。また、『毛詩』(おもに雅・頌)三礼を中心とする儒家経典、『楚辞』や『文選』、前漢「郊祀歌十九章」以来盛唐以前の各種郊廟歌辞や、開元十三年本封禪の儀にかかわるその他の詩文、祭祀儀礼そのものについての規定・記録などを渉獵することにより、歌辞楽章の措辞やその発想の拠り所を相当詳細に明らかにできた。

封禪を構成する三つの儀式(登封・降禪・朝覲)のうち、玄宗開元十三年封禪に関しては、上述した登封儀に対する歌辞のほか、降禪儀に際して奉奏された全八首の楽章歌辞(賀知章・源乾曜ほか作)が現存する。最終年度には、論文(4)として、この歌辞について28,000字におよぶ詳細な訳注を作成した。本訳注においても前稿同様、従来詳細に訳解されたことのなかった封禪儀礼における歌辞楽章について、その措辞や発想の拠り所を精細に明らかにできた。

一方、「研究の方法」(3)で計画した、歌辞本体読解を基にした、初盛唐郊廟歌辞と同時代の学術・政治との関係の考察については、期間内に十分な結果を得ることができなかった。この研究を進めるには、玄宗期のみならず、武后期、太宗期の郊廟歌辞分析を通じた祭祀構造の把握が不可欠となる。今後はそれらについて引き続き分析を進めたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

(1) 加藤聡「『開元十三年禪社首山祭地祇樂章』訳註稿」、『中唐文学会報』第22号、p.155-180、2015年10月、査読無し

(2) 加藤聡「張説『開元十三年封泰山祀天樂章』訳註稿(下)」、『山形県立米沢女子短期大学紀要』第50号、p.21-40、2014年12月、査読無し

(3) 加藤聡「張説『開元十三年封泰山祀天樂章』訳註稿(上)」、『山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告』第41号、p.21-32、2014年3月、査読無し

(4) 加藤聡「唐代郊廟歌辞資料としての『楽

府詩集』・『旧唐書』音楽志と『大唐郊祀録』』  
『米沢国語国文』第42号、p.24-41、2013年  
11月、査読無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 聡 (KATO, Satoshi)

京都女子大学・文学部・准教授

研究者番号：10335325

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：